

第8回 看護介護研究発表会

医療法人協愛会阿知須共立病院

- 日時 平成27年3月5日(木) 17:50~19:30
- 場所 2Fホール
- 司会 田中 美加 主任
- 座長 西村 直弘 主任



開会の挨拶

看護部 教育担当師長 井原京子

新病院も移転して早くも1ヶ月がたちました。演題も去年より1題増えて7題です。

看護研究は出発点も最終地点も患者さんのためにあるのです。データを提供してくださったスタッフや患者さん達の期待にこたえるためにも「研究結果は必ず患者さんにお返しする」という気持ちと倫理観を忘れずにいたいと思います。



研究発表1

経管栄養患者の口腔ケアの検討

～くるリーナブラシを使用して口腔機能評価～

4階療養病棟

- 看護師 石田恵子
- 看護師 梅林雅子

入院患者さん13名を対象にくるリーナブラシを使用して口腔ケアを行い他者評価(衛生士よりの評価)スタッフの客観的評価・3ヶ月間の体温を元に評価を行った結果、歯の汚染、口臭の改善、口唇の乾燥が改善できました。



研究発表2

身体拘束に対する3階療養病棟職員の意識調査

～スタッフも患者も笑顔で安全に過ごせるために～

3階療養病棟

- 看護師 長谷政裕
- 看護師 俵屋美恵
- 看護師 小畑美緒

職員の意識調査を行い、拘束に対する思いや、今後、身体拘束が必要な患者に対し3階療養病棟はどう取り組んでいけば良いのかを考える機会とすることを目的として病棟看護師16名、介護士11名に8項目にわたりアンケートをとりました。身体拘束を最小化にするための方策としてジレンマやストレスを改善するためには定期的なカンファレンスや情報の共有化が大事であると再認識させられました。日々の業務にどうカンファレンスを取り組み、情報を共有化していくかが今後の課題となりました。



研究発表3

点滴固定テープの剥がれによる抜去、輸液漏出のリスク増加

～固定方法の統一、改善により患者への負担を軽減する～

5階一般病棟

- 看護師 中尾恵子
- 看護師 山田宏美
- 看護師 阿部亮太

体動のある患者さんでは、点滴固定テープの剥がれ、点滴刺入部からの血液漏れが起こっている状態にあることがわかりました。その為、自然抜去や点滴漏出リスクが増強し、点滴の再留置やテープの張替えが必要です。患者さんへの苦痛の低減をはかるためにテープ固定にΩ止めを利用し、ループ部の固定の剥がれは明らかに少なくなりました。差し替えや張り替えの減少により患者さんへの苦痛、皮膚トラブル軽減へとつながりました。



研究発表 4

外来スタッフの待遇状況調査

～院内職員アンケート結果より～

外来看護

- 看護師 久保智子
- 看護師 久弘正子
- 看護師 森田愛子

「病院の顔」とも言われる外来において、待遇は新病院の立ち上げにおいても重要です。当院看護部では、待遇改善の活動として、年 2 回待遇マナーチェックリストの自己評価を行っています。去年の当院外来への苦情を鑑みて院内職員から見た外来スタッフの待遇について調査を行いました。対象は外来看護職員を除く、院内職員 288 名で、自己評価形式のチェックリスト（29 項目）を他者評価形式へ変換し、集計しました。外来看護職員個々が対応の不適格さに気付けていない結果が見えました。職員どうしがお互いに指摘し合えるチーム環境をつくる必要があると思いました。気持ち良い挨拶を心がける気配りも必要と思いました。



研究発表 5

トロミ茶の統一をめざして

～トロミ状態のバラツキをなくすポイント～

3 階療養病棟

- 介護福祉士 田中宏承
- 介護福祉士 村岡弘美
- 介護福祉士 村上由美

トロミ茶の提供に際し、介護士ごとにトロミの粘土にバラツキがあることがわかったため

- ①介護士にトロミ茶についてのアンケート実施
- ②トロミ粉使用量を計測してトロミ茶の試作・検討
- ③患者 3 名に提供して評価を実施
- ④実施内容に対するアンケートの実施を行いました。

研究結果は病棟でのトロミ粉の量を基準化することで、誰が作成しても、統一したトロミ茶をできるようになりました。今後職員間の情報共有や S T との連携を図りその時の状況に合わせた対応も必要になってくると感じました。



研究発表6

病棟看護師と訪問看護師の連携促進の試みについて

訪問看護ステーションすこやかナース

- 看護師 広兼浩子
- 看護師 土井麻望

現在、当ステーションでは、高齢者や医療依存度の高い方の利用が多い。今後在宅での療養生活が増加すると考えられ、そのためにも認知症、医療処置や身体援助の必要な療養者が安心して在宅での生活が行えるように病棟看護師と訪問看護師の情報共有、さらなる連携強化が必要と思います。そこで病棟看護師と訪問看護師の在宅看護に関する意識調査結果と「訪問看護連絡表」の活用についての結果と今後の課題についての発表がありました。



研究発表7

スピーチロック廃止に向けての取り組み

老人保健施設ニューライフあじす

- 介護福祉士 正司菜見子
- 介護福祉士 中重良子
- 看護師 藤村 歩

スピーチロックの意識調査を行い、廃止月間をもうけ、廃止月間前後のアンケートを行いました。今回の活動を通して、ニューライフあじすにおけるスピーチロックの発生が減少しました。職員それぞれがスピーチロックを減らそうと心がけ、「忙しい」を理由にスピーチロックをする事も減少し、相手の身になって声掛けをしようと心がけている職員も増えました。今後、職員の意識を向上させ、職員同士が助け合いながら注意しあえる環境を作り、スピーチロック廃止に取り組みたいです。

身体の拘束ばかり視点がいきやすいのですが、言葉の拘束も考えないといけないと思いました。



質疑応答

看護部、他部署からの参加もあり、140名の参加者です。
場内から活発な質疑応答がありました。



院長による総評

プレゼンテーション技術も向上したと思います。
今後は看護部だけでなく、他部署からの研究発表も期待しています。

以上